



麒麟

大田区立松仙小学校
令和 2年 12月11日(金)
裏研究推進だより 第26号
2学期担当

12月2日(水)4年生話題提供授業

協議と指導・講評の記録

協議(成果)

- ・子供同士で具体的なアドバイスをし合っていた。
→「空中で足を切るように回すんだよ」
- ・たくさん跳んでほとんどの子が記録を上げている。
→挑戦する機会があり運動量が確保されていた。
- ・一つ一つの場が工夫されていた。
- ・自然な拍手、認め合う雰囲気が良い
- ・準備運動が今回の内容に即して良かった。

協議(課題)

- ・アドバイスに具体的な観点があっても良かったのではないかと適切な言葉がけとは?こつの伝え方は?
- ・振り返り→できた、できないという結果になりがち。助走や踏切についてなどポイントを絞ったほうが効果的ではないか?
- ・伝え合いは手段だと思いが伝え合いが目的になっていないか?→本時の目標とめあて、学習内容にズレがあったのではないか?
- ・場の理解が子供によって差があった。また、全ての場所を回る必要があったのか?
- ・みんなで声をかけると、掛け声に合わせて跳ぼうとする子もいたのではないかと?→掛け声に合わせて跳ぶのではなく跳ぶ子に合わせて掛け声をかけるべき。

指導・講評

大田区立東調布第三小学校校長 本田 幸彦 先生

○アドバイス、適切な言葉がけ

4年生で適切な言葉がけは難しい。授業の中で子供は身振り手振りを交えてやっていた。いくつかピックアップしておき、参考にさせると良い。

○必要感

ひざを曲げたままでは跳べないが、何回もチャレンジして最後に跳べた子がいたが、子供に跳びたい、跳ばせたいと思うことが重要。それぞれの子供たちに、適切なめあてをもたせるのが大切。そのためには子供たちの立場で考える必要がある。

○運動量

運動は繰り返し反復してやるのが大切。今回の活動では24~25分運動時間が確保されていた。実際に動く時間は数秒だが、子供たちは本当によく動いていた。(校長先生の計測によると、58.4%とのことです。)

○場の工夫

それぞれの場所にいろいろな工夫がされていたが、この時間のめあてをそれぞれ一人一人の子供がもっていないといけな。ICTを上手く活用していたのは良いが、どの角度から写せばよいかなどやってみないと分からない。実践して試行錯誤することが必要。またそれぞれの場にはこういう意図があると確認できるようになっていると良い。

○安全面

高跳びの棒の位置は助走が長かったため幅が狭かったかもしれない。また、ゴムは視認性の良い太いものを使って洗濯ばさみなどを加工して外れるような工夫をすることもできる。

○掛け声

最後の1・2・3は跳ぶ力を垂直方向にむけるため、間隔を短くしなければならない。また掛け声に合わせて跳ぶのではなく、跳ぶ子の足の動きに合わせて掛け声をかけることが大切。

○高跳び系学習の系統性

1.2年…遊び、3.4年…高跳び(走りがついてない、助走が短い)、5.6年…走り高跳び。中学年では、場を選んで跳ぶことができるだけでも良いが、高学年では場の意図をわかってないといけな。ゴムに触れること→子供たちに考えさせて競争する中でルールの確認をすると良い。

○課題とめあて

めあて→大きくは目標設定。少しずつ具体的にしていって、それぞれの子供によって力が違うので、なりたい姿になるためにはどうすればよいかを考えさせる。良い動き→自分で自分の動きを見ることはできない。友達の動きを見てそれを伝えることは難しい。繰り返し試行錯誤することで伝えられるようになっていく。ICT や写真など様々な方法を使って伝えていく事が大切。

○こつこの捉え方

自分の課題を解決する感覚。

○学習カード

非常によくできているが、時間をかけすぎではならないし知識技能と結びつけてないといけない。そこに教師のコメントを入れることが重要。

個人的には ICT 機器を使って自分の跳んでいる姿を追いかけて再生で見ることができるとビックリした。使い方次第で様々なことができるので、ICT の活用方法を試していきたい。また体の動かし方や跳ぶタイミングなど、体の感覚を通してこつや方法を身につけていくという事は、図工の学習とも大きく共通する部分だと感じた。図工の授業でも繰り返し活動していく中で自らの感覚を通してこつを身につけていけるようにしていきたい。【文責： 】

「☆キラリ☆」と光っていた付箋

○成果

- ・準備運動の動画がよかった。(先生)
- ・帽子の色を変える→跳べたという自信に繋がり、コツを捉えようとする意欲に繋がる。(先生)
- ・仲間と協力して用具の出し入れ、チームで動くことができていた。(先生)
- ・高くジャンプするコーナーで「片足じゃないと意味ないよ。」「助走を大きくしたら近くで跳べるよ。」と目的に合ったアドバイスができていた。(先生)(先生)
- ・タブレット端末(追っかけ再生)の活用がよかった。(先生)
- ・足のリボンで踏み切り足が分かるので、間違えている子には周りが伝えていた。(先生)
- ・導入で、めあて、場、ポイントなどみんながしっ

かり話を聞ける状態で伝えていてよかった。

(先生)

○課題

- ・安全面…支柱の持ち方、立ち位置が危ない。(先生)
- ・伝え合いの際、「助走が」「踏み切りが」など伝え方を決めておくとさらに深まった。(先生)
- ・合格の判定が甘い。バーだと落ちてしまうかも。

【文責： 】

先生、関係の先生方、お疲れ様でした。今年度から始まった体育の研究ですが、それぞれの授業に提案性があったので、授業の事実を基に闊達な議論ができたように思います。グループ協議だけだとちょっと消化不良だったのが、今回は全体協議の復活によって成果と課題がよく分かった気がしました。個人的には、先月までやっていた5年生の走り高跳びの授業は、3・4年生の高跳びで学んだことを生かすような授業づくりができていたのかなと反省しました。ゼロから出発してしまっていた気がするので、今後は中学年での学びを引き出しながら、高学年でのポイントを明確に指導できるようにしていきたいです。【文責： 】